

本朝賢臣也、為此寺檀越、依此緣修孟蘭盆誦經、窻卿牙笏位袍等累代之宝物納置寶藏。今昔物語云、七月十五日孟蘭盆の日、極て貧なりける女の祖の為に食を備ふるに堪へずして、一つ着たりける薄色の綾の衣の表を解きて盆に入れて蓮葉の上に覆て愛宕寺に持参て伏拝み泣去にけり、人怪で寄て之を見れば蓮の葉にかく書たりける。

たてまつる蓮の上のつゆ計りこれをあはれとみよの
 仏も、
 日本後紀云、天長三年緩子内親王薨、太上天皇(嵯峨)皇女、葬于愛宕郡愛宕寺以南山。今不詳。

補【六道珍皇寺】○山城名勝志 宝物集に珍皇寺の北にある八坂の塔と云り、然るときは八坂法親寺の南辺より今の六道の辺に至る迄、此の寺地なりしにや、以呂波字類抄云、珍皇寺(愛宕寺)参議小野窻卿建立、土俗云、此寺者山城国分寺、弘法大師幼少之時、相從慶俊僧都久住此寺給、云々、又窻卿招慶序衆本朝賢臣、為此寺檀越、依此緣修孟蘭盆誦經等、窻卿冠牙笏位袍等累代之宝物納置寶藏云々、去永久年中、本寺炎上、次焼失畢。河海抄云、をたぎ、桓武天皇平安城に遷都の時、此地を諸人の葬所に定らる(見延曆遷都記)かしこに珍皇寺といふ寺を建つ、弘法大師の聖跡として、今に東寺の一の長者管領也。

○六道 五条が末の北、建仁寺異角に在り、今建仁の大昌院管領、薬師堂あり、是珍皇寺の本尊云々。今昔物語云、七月十五日孟蘭盆の日、極めて貧かりける女の、祖の為に食を備ふるに不堪して、一つ着たりける薄色の綾の衣の表を解て、盆の盆に入れて蓮葉の上に覆て、愛宕寺に持参て、伏拝て泣去にけり、人怪むで寄て此を見れば、蓮の葉にかく書たりける「たてまつる蓮のうへの露ばかりこれをあはれとみ世の仏も」

日本紀略(後日本後紀を改める)云、天長三年六月甲辰、俊子内親王薨、太上天皇(嵯峨)々女也、丙午葬山城国愛宕郡愛宕寺以南山。

北斗堂址

語曲湯谷に、洛東の景物を叙し「北斗の星の曇りなき」とあるは北斗堂の灯籠を曰ふ、蓋妙見菩薩を祀るもの也、六道の東に之を記せる古図あり。又六道迎鐘として毎年孟蘭盆会の前(陰曆七月十日)聖靈迎接の爲めとして衆人念佛語に詣て鐘を鳴らす、之を迎鐘と云ふ、亦今昔物語の古意に出づる者也。六道は仏語地獄餓鬼畜生修羅人間天上の六界輪廻を謂ふ、念仏功德は其輪廻を解脱すとぞ、転じて此寺辺の地名と爲る。(逸史、延曆十五年、勅禁京畿吏民祭北辰)

(六道)

語曲湯谷云、河原表を過ぎゆけば、急ぐ心の程もなく、車大、路や六波羅の、地藏堂よと伏拝む、げに守りの末すぐに、頼む命は白玉の、愛宕の寺も打過ぎぬ、六道の辻とかや、実におそろしや此道は、冥途に通ふ者なるを、心ほそ鳥部山煙の末も薄霞む、声も旅雁の横たはる、北斗の星の曇りなき、御法の花も開くなる、経書堂は是かとよ、(経書堂は清水寺に在り)

八坂郷

和名抄愛宕郡八坂郷訓也佐加、今下京区大谷吉水円山祇園建仁寺の辺、南は五条の末清水辺を限ることし。

姓氏録云、山城国語番八坂造、出自伯國人之留川麻乃意利佐也。俗説此地に八個の阪あり祇園長楽寺坂下河原坂法親寺坂靈山坂三年坂山之井坂清水坂と、(名跡志)蓋牽強の語のみ、たゞ坂の多きを曰へるなり。都まで民の家居をたてそへて今は八坂の里もわかれず、
 僧 蘆 庵
 八坂墓 光孝天皇外祖母藤原総繼夫人数子の墳なり。延喜式八坂墓、贈正一位藤原氏在愛宕郡八坂郷、墓地

十町墓戸一煙。法親寺(八坂塔)の北朝日塚是なり、今上に稲荷祠を置く、(一隅抄)金園町西側人家の後に丘形稍弁すべきのみ。(河田氏説)

八坂法親寺

八坂寺又法親寺と曰ふ、延喜式平安京七寺の一なり創建詳ならず、今諸宇廢し大塔のみ存す。元亨釈書云、天曆中淨藏萬八坂寺時、縉紳多集、見塔云、塔之傾斜也、其方有凶今是塔傾向王城、為之若何、藏云我亦思之、其夜藏坐露地、向塔持念、明朝見之、塔婆端直、都人嘆嗟、以呂波字類抄云、八坂寺、小野窻卿舍弟建立塔婆、天長三年也。夢窓國師法親禪寺仏舍利塔記云、法親寺塔者上宮太子建、寺塔五層、奉安仏舍利三顆。按ずるに此寺創建詳ならず、仁治元年僧証救の時建仁寺に属す。

(八坂塔)

五層塔婆は明治三十年国家特別保護の下に置かる、方三間高十六丈八尺塔と称し古來幾多の興亡ありて、今存するは永享十二年足利幕府の修造に係る、元和四年所司代板倉勝重補修す。永享日録云、永享十二年四月、法親寺塔供養、將軍(足利義教)御成。

八坂法親寺塔婆供養結座頌 景 南
 祇園南清水北、五層宝塔忽巍然、攀中階透龍蛇窟、到上界開雲霧天、百二山河玉欄外、兩輪日露盤邊、風前細聽鐘鈴語、觀算台齡億万千、
 八坂庚申堂は八坂大塔の西に在り、京人稱して日本三庚申の一と曰ふ、来由詳ならず。

補【法親寺】○山城名勝志 以呂波字類抄云、(八坂寺、法号法親寺)小野窻舍弟建立塔婆、建以後自天長十年迄久安二年三十三年淨藏上人行直此塔指乾方傾斜給天曆年中也、建立以後及百卅余年。法親禪寺仏舍利塔記云、法親寺塔者、上宮太子取材山城州愛宕山、建四天王寺塔焉、時城州未都、云々、即其地建寺塔五層、奉安仏舍利三顆、寺名法親云々。